

# 大野木グラウンドワークだより

平成 22 年 12 月 12 日 発行 NO 50 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

いよいよ 50 号を迎えました。

12 月 7 日 (火) 平日作業となりました。

メニューはホダ木への植菌、大ブランコ、植栽、木の葉かき、作業台づくりと欲張っておりますが 12 月はさすがみなさんお忙しくて、報恩講もありで平日プログラムにしたのではありますが、

どうしても本日やらないといけないメニューからお願いすることに

まずホダ木をチェンソーでサイズを揃えて晋さんがカット、それを作業台まで運んでドリルで穴あけ、そこへ菌駒を打ち込むという手順が OK となって、ファイヤーサークルに大物がほり込まれてとりあえず段取り一服をして～

休憩に熱いコーヒーが出され、甘いお菓子も、女性陣が 8 人揃って「さーやりませ」と気合充分、それでドリルでの穴あけ、菌打ちは女性陣が流れ作業でこなしてくれて大助かり・・・炎の白い灰が風で飛び「雪が降る」状態での作業ごくろうさまでした。

一方、実のなる木の植栽はエイとばかり見当をつけて「ゆずはこのへんでずーっといきましょか」と善次さん、黎ちゃんと決めてもらって 10 本のゆず列ができました。

みかんはコスモスを刈り取った後に石積みに沿ってこれまた 10 本植え付け、いちじく 5 本はその反対側に、栗はターザンロープにひかからない位置を見定めて植え込みを完了。

杭は少し太すぎて竹で後日フォローすることに

大ブランコの NO2 は稔さんが新調の公民館のはしごの試運転を兼ねて上がってくれて、まずは枝打ちを下から順に 10 メートルのはしごの先からまだ 2 メートル以上上で作業してくれて、これは確実に日本一のブランコになりますわ、だって確か日本一が 10 メートルちょっとやったと記憶しております

お昼は小澤さんが提供して下さった「しし鍋」をおいしくいただきました。

## TPP と里山

かつて1俵当たり2万円超が今や1万円に、将来不安から次世代の担い手が育たない状況の中、5,600億円の国費を投じて始まった戸別所得補償制度は農家の所得減に歯止めをかける「岩盤政策」ともいわれている。

が、このまま下落が進めば、そして原則として関税を撤廃する環太平洋パートナーシップ協定（TPP）への参加になれば、仮にゼロ関税でコメだけの所得補償額は倍の1兆円を超え財政破綻し政権はぶつつぶれることになる。

加えて所得補償というものは農家を補助金依存のひ弱な体質にし、財政を考えると大盤振る舞いは長続きせず財政破綻すればわが国の稲作はある日「突然死」する運命にあるともいえる。

「すわっ黒船か」と騒がれたTPPへの参加はいまのところ先送りされたが、農林水産省の試算によればコメの食料自給率は13%に低下し、地域社会は崩壊し国土は荒れ果てることになる。

しかし、海外との市場開放の流れは止めることは出来ずいろんな現場で真の競争とは何かということが論点、視点となって政策論争を引き起こすことになっていくものと考え。その際にはわが国の雇用、国土保全という観点から里山こそ主要なキーであることを再び主張するものである。

すなわち国家は「里山徳政令を出し」日本の成熟社会における成長戦略は高齢者による中山間地における役割を担うパワー、エコ派、市民派、自然派、高齢者、知識人、農家等々の支援を受けた安定政策を打ち出すことによって長期安定政権へとつながっていくものと確信する。

誰もがどこでも参加できる形での日本国中の里山、里川、里海が賑わえばこの国は本来の品格を取り戻すのである。

そこへの手順は乱暴すぎるくらいの荒療治で結構かなと思ったりしますが、またまたこのお話は何度か続けていきたいと存じます。是非、異議あり反対意見もお寄せください。

年が変わりますれば1月も行事が多くて調整がうまくいきませんが、  
次回は

**1月8日（土）** でお願ひします、天候不順であればワークショップをと考えております

# 大野木グラウンドワークだより

NO50 平成22年12月7日(火) 曇り

グラウンドワークだよりも第50回目の発行  
毎回変わらない写真と内容ですがお読みいただき  
ありがとうございました。これからもよろしくご声援くだ  
さい。

## 椎茸の植菌



作業中も笑顔で笑い声の絶えない楽しい一日でした。



原木は今須の吉田建築の提供により予定より1ヶ月早く作業が出来ました。  
また、今回も女性のパワーが大活躍でした。

## 実の生る木の植栽

「日本一高いブランコ」の2本目  
を作成開始しました。あまりにも  
高いので吉田さん意外は下で見  
守るばかり、年明けには完成予  
定。  
ご期待の程よろしく.....



柑橘類と栗、イチジクの植栽をしました。

今年も皆様のご支援いただき  
ありがとうございました。



来年も大野木グラウンドワークをご支援ください。